

コ スプレ ズ

PM

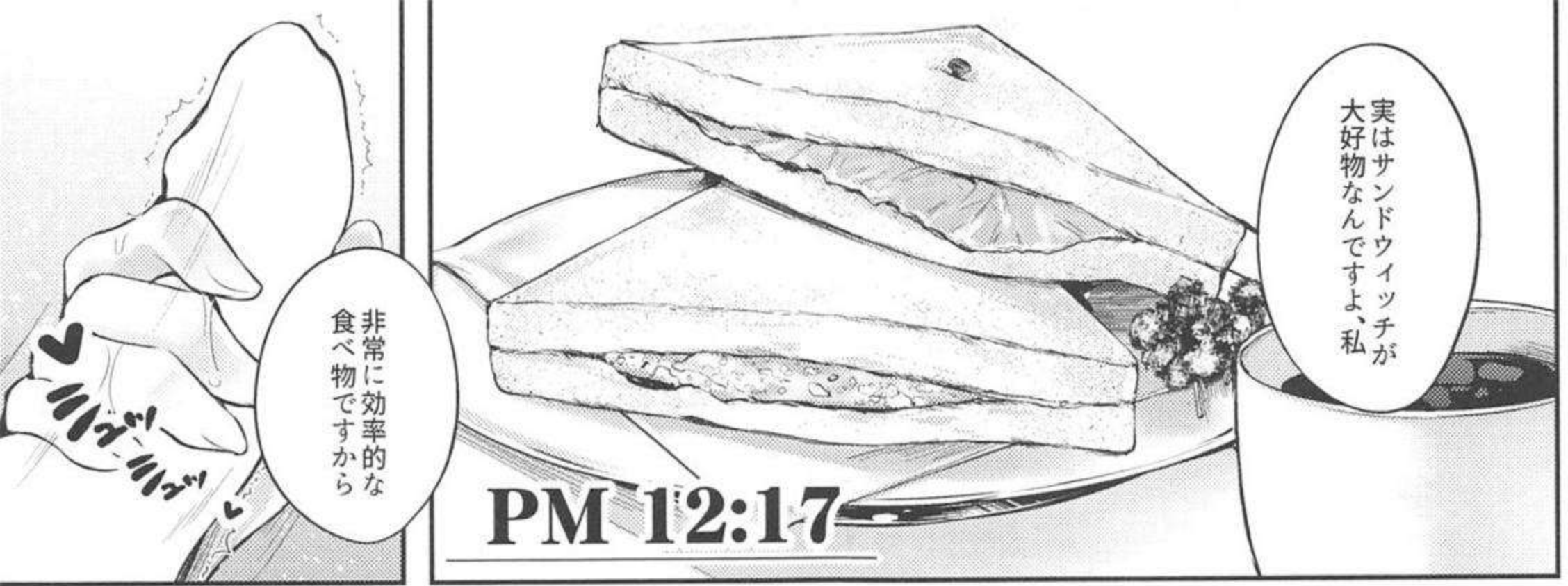


DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



まほらはここに在った。



非常に効率的な
食べ物ですから

実はサンドウィッチが
大好物なんですよ、私

PM 12:17



食べながら
仕事でも
ポーカーでも……

片手で食事を摂りながら
もう片方の手で
別の事もできる



恋人への
ご奉仕でも、ね？

さとりの小さな手が
優しく愚息を這う

激しさもなく
好きな時に果ててもいいと
言わんばかりの
ねっとりとした
刺激に耐えきれず

う……

彼女の顔に欲望を
吐き出そうとした瞬間

ビクンと跳ねた
愚息は薄切りのパンに
ぼっくりと包み込まれ

ビクン

ゴッ

カラフルな具の中へ
欲望の白色が
彩られて行く事になった

白



精液が溜まったおおよそもう
食べ物と言いつい難い「それ」を
平然と口へ運んでいく



そんなの
気になりませんよ

溢れた欲望で顔を汚しながら
うっとりとした顔で
味わい嚙下していくさとりに
「汚いですよ」と申し出ても

グハッ
グハッ



あなたの汚いところも
全部ひっくるめて
愛してるんですから

そう
返されてしまった



PM 13:08

午後からは
間欠泉地下センターが
本稼働を始めるため

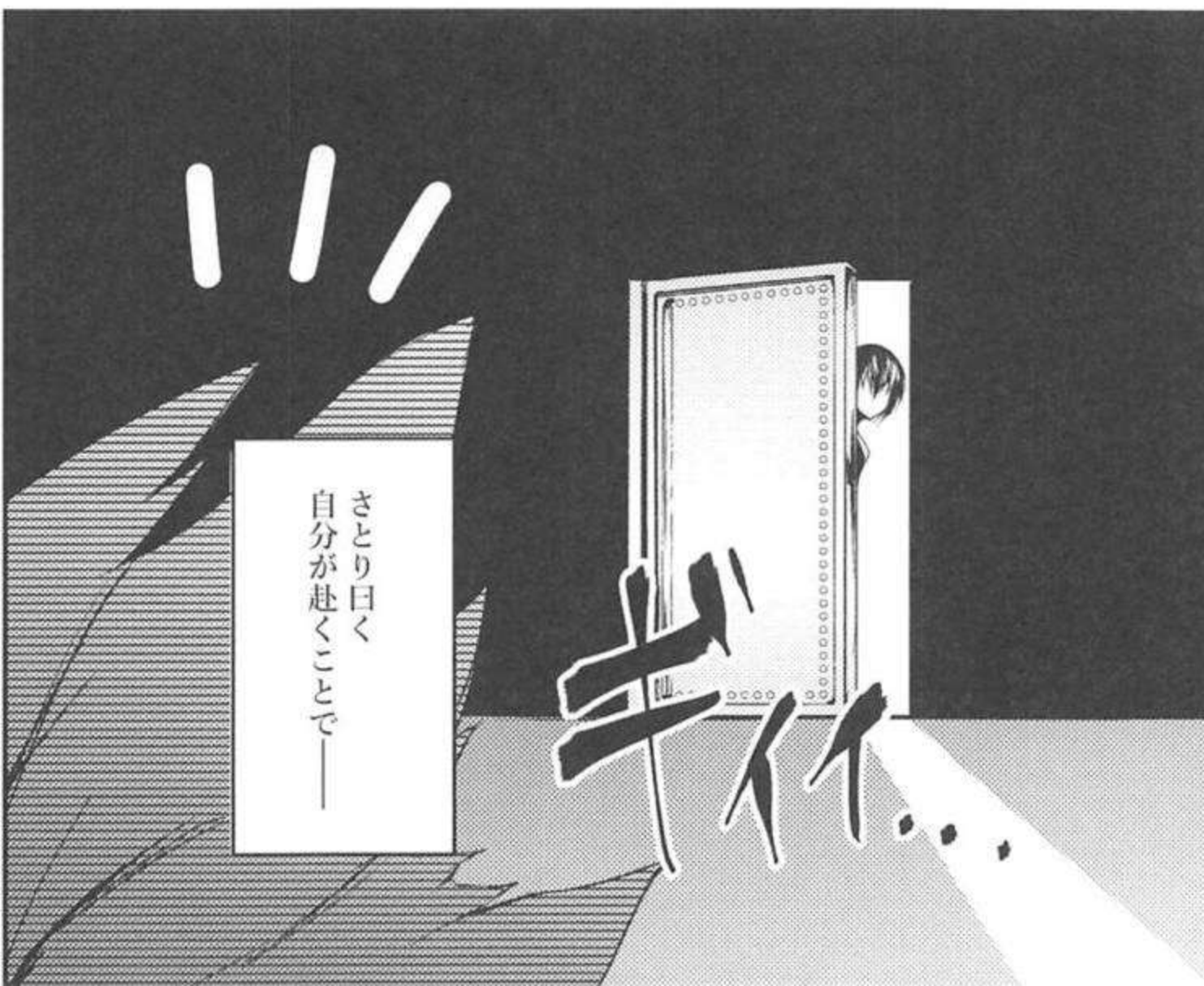
その見回りに
一人で
出向くことになる

カッ...カッ...



本格的な管理自体は
山の神様や河童などが
徹底してくれているし

そもそも核融合など
何の装備も持たない人間の
手に負える代物ではない



さとり曰く
自分が赴くことで



それでも
この見回りを
任されているのは



「お空の作業能率が
桁違いになるから」
という話のよう

効率的な
彼女らしい提案だ



おにーさん!



えへへー
今日も頑張るね

空の柔らかい
身体の一部が
押し付けられる

つい形の良い
おっぱいに
手が伸びると

この無邪気さと
豊満な身体を
普段から堪能していると
考えてしまい
下半身が反応してしまう

あ、おっぱい
したいの...

hmm...hmm...

おい
炉内の数値が
不安定になつてんぞー

また
あの人間が
来てんのかあ？

ありや



ごめんなさい
今戻ります

お空の能力の能率を
引き上げるのに
貢献していると言え
ば聞こえはいいが

ほらその人間
役目は終わりだろ



ただでさえ不安定故に
監視が必要なのに

危ないから部外者は
とっとと帰れ帰れ

さらに安定が崩れる
要因であるというのも
事実なため

現場からは
あまりいい顔を
されてない



そのため
投げられる冷たい視線が
理不尽な因縁になる前に
その場を離れる事にする

まあ
この嫌な視線の
一番の理由として
思い当たるは



かつて炉内で
ついそのままお空と
セックスした時に――



あわや大惨事を
引き起こしかけた事が
原因なのだろうが

あれは流石に
巫女さんにも
怒られたので
反省はしている



地下のセンターが
本稼働を始めた事により
地霊殿にも少なからず
熱が籠り始める

…暑い

PM 15:42



全て
書類に描かれた
基準値内なのを確認

各排熱機器や
その周囲の室温などに
問題ないか
チェックをして回り



失礼します

さとりへ
報告するべく部屋へ
足を踏み入れると

そこには
原始的手段で暑さを凌ぐ
幼い裸族が二人
へばっていた

お疲れ様です

……
お疲れ様です

いやあ
こう暑くては
仕事になりませんね

そうは
思いませんか
こいし

お姉ちゃんの
言う通りー

排熱機器の稼働率には
余裕があるんですから

暑いのなら見直しを
検討するべき
なのは

何事も節約と――

はだけた衣服から
局部がチラチラ見えるように
わざとらしく手で仰ぐ

休憩は大事ですよ
あなた

地霊殿の主としての矜持なのか
どうも仕事中に堂々と
自分から求めるといふのは
したくないようで

こうして非常に
あけすけなアプローチで

「お仕置きだから仕方なく」
「求められたから仕方なく」
といった形にしたいらしい

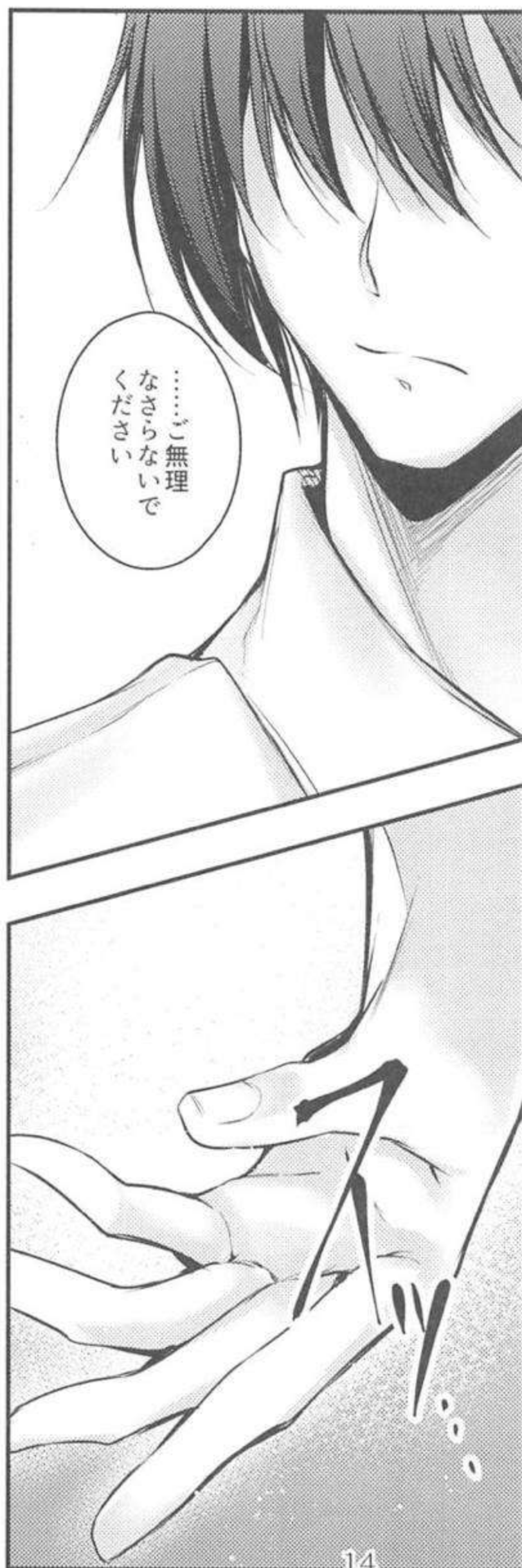


妹の方に関しては
室内ですっほんほんで
居ること自体が
なんかもう
楽しくなっているようだ



そんな
自尊心が高いところは
彼女らしく
とても愛らしいのだが

この室温では
さとのり身体のほうが
心配である



……ご無理
なさらないで
ください



……あら
氣遣って
頂けるのですか

汗だくの中
貪り合うのも一興とは
思いましたが

そう
耳元で囁かれ



体液を撒き散らしながら
欲望のまま身体を求め
好き放題に二人を犯す
光景が脳裏によぎる



ほんの一瞬のことだが
心を読む彼女に
見逃されるはずもなく

……せっかくお氣遣い
頂いてることですし
今はやめておきましょうか

含みのある笑顔で
ニタリとされる



キスを貰ってからの
多少のニヤけ面を
気にしつつも
今日の分の仕事は
滞りなく終わり

一服でもしようと
休憩室に向かうと

猫耳の先客が
ソファで
うごうごしていた

んあ……

どうもおにーさん
お疲れ様ー

お疲れさま

PM 17:05

最近この時間帯の
お隣はいつも
こうである

自分がさとりの仕事を
手伝うようになり
今まで忙殺され
行き届いてなかった

地霊殿内における
管理の目が
行き渡るように
なった結果



要領良くサボったり
休憩していた者の
精神的な疲労が
増えているらしい

お隣も適度に
そうだった事を
楽しんでいたらしく

仕事が終わる時間帯には
もうこうして
疲れ果てている事が多い



そうすればその時間は
抜き打ち監査が来る
心配がないわけで

うん



…こうお兄さんが
仕事で定期的な
さとり様
抱くとするじゃん

うん



……完璧じゃね

そーだねー



お兄さんは抱けて幸せ
さとり様は抱かれて幸せ
私はサボれて幸せ

うん



そしてお隣が膝の上に来て抱きついてくるのも何時も通りである

ちよーつとお兄さん分補給させてねー

ヨシ

ヨシ

至極甚だ悉くこれ以上ないほどに無意味な会話が交わされる



いつも通りだ



……んー



……あたいたちも煙草休憩みたいにさ定期的にこうするのは許してくれるかな？

どうだろうなあ



押し付けられた柔らかい身体を優しく抱き返してやる

さとり様も流石に都合が良すぎると思うんだよー

毎日の休憩と称して
自己主張の激しい
お隣の身体を好きに抱く

外の世界で言えば
フレックスタイムと
言う奴だろうか

職場で合法的に
同僚とセックス
するような

そんな光景を
少し想像して
しまったら

あはは
朝あんなにしたのに
元気だねえ
お兄さん

先刻の生殺しも相まって
予想以上に
愚息が反応してしまった

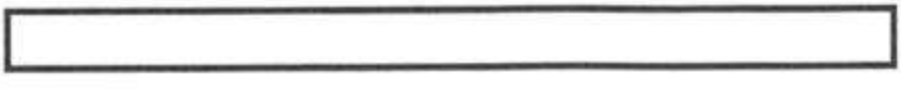
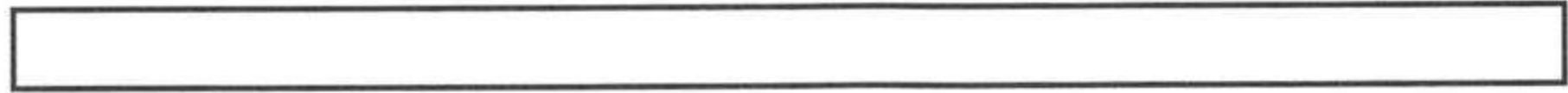


どうするー？
今ならあたいの身体
好きに使っていいよ？

大変魅力的なお誘いだ
が疲れてるところ
無理させるのも悪いので
やんわりと断っておく

その分長めの抱擁で
お隣の匂いと身体を
十分堪能する事にした

おにゅん♡



一日ぐらい
我慢しても
別に死なないのにー



PM 19:18

いやほらさー
あたいは自分で
毛づくろいしてるし

猫の毛づくろいって
かなり綺麗になるんだよ
ホントだよ

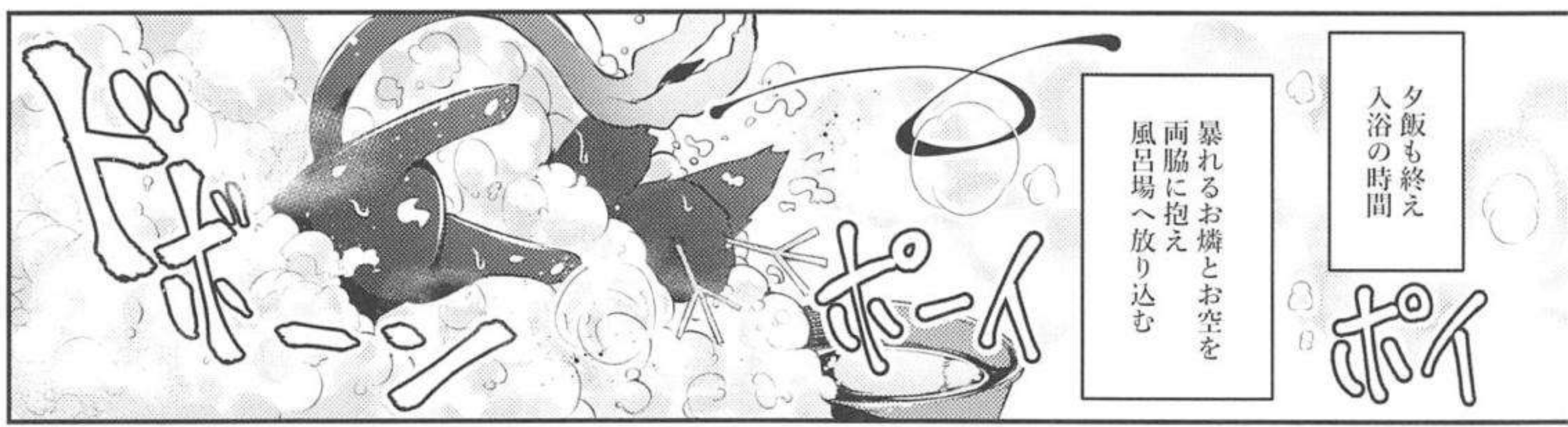


うんそうだ
ここは一つ
交渉と行こうじゃない
お兄さん

お風呂やだよー
水浴びだけで
いいでしょー？

きつとそつちにも
悪い話じゃないはずだ
ねえ聞いてる？

昨日も
入ったんだから
今日ぐらい
いいじゃん！



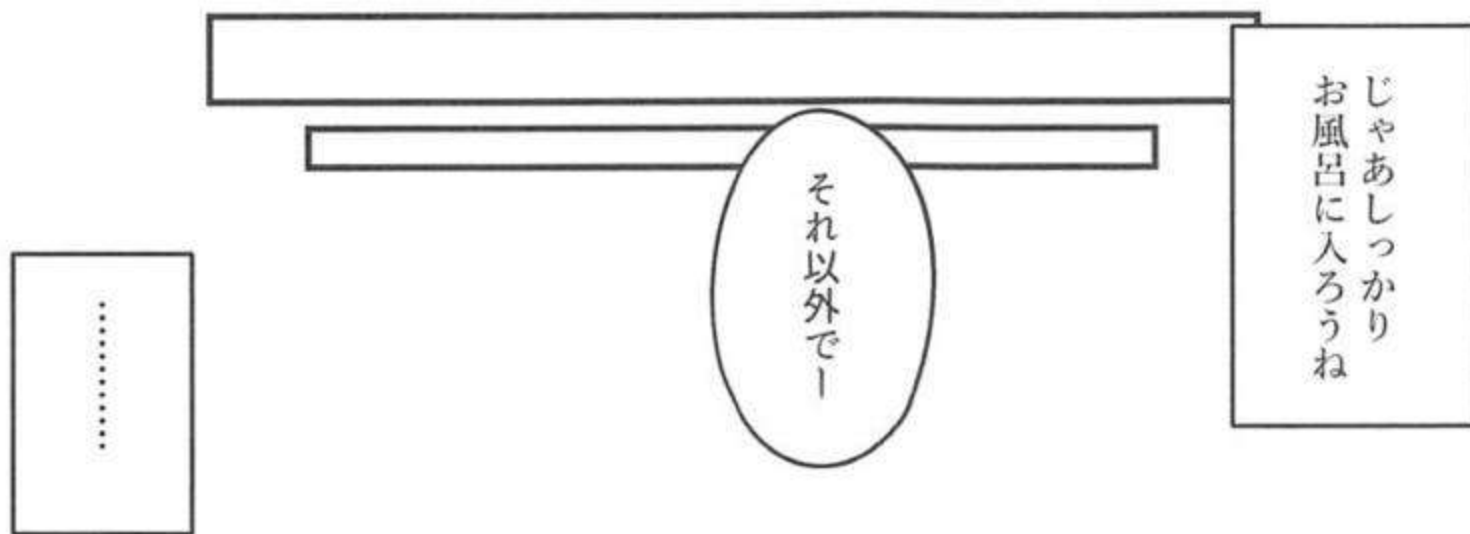
夕飯も終え
入浴の時間


暴れるお隣とお空を
両脇に抱え
風呂場へ放り込む



猫と鳥というのもあってか
この二人はどうも
お風呂が嫌いな様子

もちろん自分が
一緒に入ってあげる方が
必死の抵抗が少ないからとの事で
さとりから任されている






試しに
『泡踊りしてくれたら
上がっていいよ』と
冗談を飛ばしてみると

即座に押し倒され
ご奉仕を始められた

とびきり贅沢な
二つのスポンジが
粘り気のある音を立てて
身体へ擦り付けられる



二人からは
『湯浴みを
早く済ませよう』
という意思が
感じられるが



あのまま大人しく
湯船に浸かってた方が
結果として入浴時間は
短くなったのでは
と思うのだが

面白いので
そのまま奉仕を
続けさせる事にする



拙さは残るとはいえ
二人とも処女の時から
何回も身体を重ねた身

自分を女にした陽物の
快楽のツボは感覚で
抑えているらしく

普段より
滑りの良いご奉仕で
情けなくもすぐに
何回も達してしまった

まあ落ちとして
結局三人一緒に
のほせ上がる事と
なるのだが

PM 21:11

明日の準備も終え
寝室に戻ると

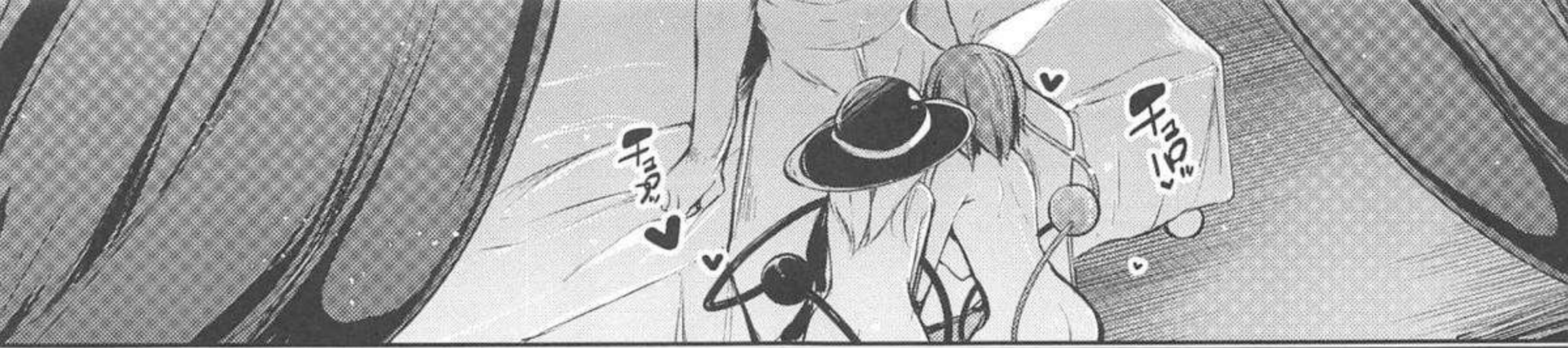
姉妹がすでに
待機しており
ベッドに迎え入れられる

軽くスキニップを
交わしながら
一日の疲れを
お互いに労りあい

今日も一日
お疲れ様でした…♡

疲れが残らないよう
いっぱい癒して
差し上げますね…♡

やがては恋人たちの
夜の営みへと
切り替わる



どちらからともなく
接触が増えてきた二人を
股座に座らせ



まずはいつも通り
姉妹二人一緒に
ご奉仕してもらう

幼い見た目の二人に
愚息を手放して
味わわせる光景は

嗜虐心と征服欲が
良い塩梅で刺激され
非常に興奮する

細い足を掴み
羞恥の声を上げるさとりへ
お構いなしに股を開かせ

愚息をあてがい
小さく狭いさとの腔内に
文字通り我が物顔で挿入する

なんやかんやと
お互いお預け状態に
なってしまったのだから

今夜はさとりにも
心ゆくまで
悦んでもらおう

こいしの方は
お仕置きするかのよう
尻をこちらへ向けさせ

無理矢理気味に
一気に根本まで
挿入する

姉と同様に
小さく狭い膣内は
全てを受け入れるように
異物を歓迎してくれた

腕を引っぱり
ぶつけ合うように
こいしの身体を
無遠慮に味わう

姉妹故に似たように思えて
微妙に違いのある膣内の感触を
交互に挿入しながら堪能する

小さいながらも懸命に
刺激を重ね
子種をねだって来る膣内

口・鼻・喉から
肺いっぱいまで
むせ返るような甘い香り

疲れを労るような
懸命なご奉仕を受けつつ
与えられる快樂に身を任せ

何も考えず
ただただ
この甘美な環境を
好き勝手に蹂躪する

そんな背徳的な行為に
得も言われぬ
快感を感じながら

地獄に咲く
二つの花の蜜壺を
心ゆくまで
貪り尽くさせて頂いた



AM 0:00



今日も一日
お疲れさまでした…♡

ちゅっ♡



明日もいっぱい
愛して
くださいね…♡

終

コメイジスケジュールPM

2019年 8月12日 初版発行
コミックマーケット96

発行・制作

みどりねこ
碧石猫

midori0014@gmail.com

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

<https://twitter.com/midori14>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN (上海アリス幻楽団)

みどりねこ
碧石猫